Lieder von

SCHUMANN und REIMANN

Seiji Kanazawa, Tenor | Keisuke Haishima, Klavier

金沢青児 × 葩島啓介

ドイツリートの領域 #2 シューマンとライマン

Robert Schumann 1810-1856

Zwölf Gedichte, op. 35 (1840) Text: Justinus Kerner

Lieder und Gesänge IV, op. 96 (1850)
Text: Johann Wolfgang von Goethe, August von Platen und Wilfried von der Neun

Thema mit Variationen (Geistervariationen) Es-Dur WoO 24 (1854)

Aribert Reimann 1936-2024

Drei Lieder nach Gedichten von Gabriela Mistral (1959):
Ekstase

Engführung (1967) Text: Paul Celan

An Hermann (2008) Text: Eduard Mörike

2026 1/12 月祝

14:30開演（14:00開場）

やなか音楽ホール

チケットWeb予約：TiGET（全席自由）
一般｜前売 3,500円　当日 4,000円
大学生｜前売 2,500円　当日 3,000円
小中高校生｜ 500円

主催｜ドイツリートの領域　後援｜東京藝術大学音楽学部同声会　日本歌唱芸術協会

お問合せ｜TEL・SMS 090-2905-9414　E-mail ryoiki@outlook.de

金沢青児×葭島啓介
ドイツリートの領域
#2　シューマンとライマン

2024年に亡くなったアリベルト・ライマンは、ドイツ現代音楽シーンではとりわけ声楽の扱いを熟知した作曲家・ピアニストとして知られ、ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウら錚々たる名歌手からの信頼を得て、オペラや歌曲の傑作を生み出した。今回演奏する3作はそれぞれ異なる時代に作曲されたものだが、特にパウル・ツェランの詩による《追迫（エングフュールング）》（フーガにおいて主題が短い間に次々と折り重なる緊張感の高い部分。イタリア語ではストレッタ）は、戦後前衛におけるドイツ歌曲の一つの到達点を示している。初演は、バッハの受難曲のエヴァンゲリストとして名高いエルンスト・ヘフリガーと作曲者によって行われたものの、20分を超える演奏時間や、全曲を貫く拍節感の希薄な書法ゆえ、重要な作品ながら演奏機会は多くない。シューマンの作品からは、「歌の年」と呼ばれる1840年に集中して書かれた歌曲群の中でも隠れた傑作ともいえる《12の詩》（ケルナーの詩に基づく）など、内省的な傾向をもつ歌曲、そして生涯最後の作品となったいわく付きのピアノ曲《主題と変奏　変ホ長調》（幽霊変奏曲や天使の主題による変奏曲などの俗称でも知られる。ライマンは《管弦楽のための7つの断章》においてこの変奏曲の一部を引用している）を取り上げる。

Program

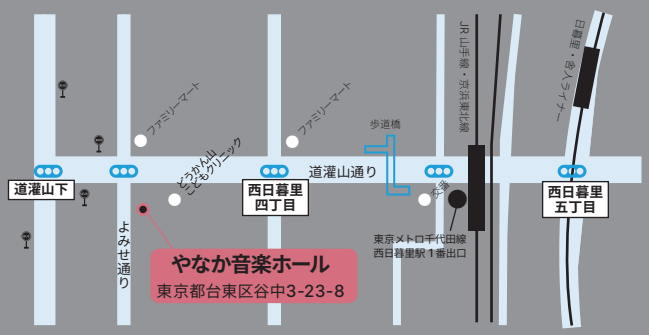
※実際の演奏順とは異なります。

ローベルト・シューマン（1810-1856）

- **12の詩 op. 35（1840）**　詩：ユスティヌス・ケルナー
- **リートと歌 第4集 op. 96（1851）**
- **主題と変奏 変ホ長調（幽霊変奏曲）WoO 24（1854）**

アリベルト・ライマン（1936-2024）

- **エクスタシー**
  ガブリエラ・ミストラルの詩による3つの歌曲（1959）より
- **追 迫（エングフュールング）**　（1967）　詩：パウル・ツェラン
- **ヘルマンに**　（2008）　詩：エドゥアルト・メーリケ



交通案内

- JR山手線・京浜東北線　西日暮里駅から徒歩5分
- 東京メトロ千代田線　西日暮里駅（1番出口）から徒歩5分
- 日暮里・舎人ライナー　西日暮里駅から徒歩7分
- 都営バス 草63（池袋駅東口～浅草寿町）道灌山下停留所から徒歩1分
- 都営バス 上58（早稲田～上野松坂屋前）道灌山下停留所から徒歩2分

Profile

金沢青児（テノール）
愛知県生まれ。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院音楽研究科修士課程を首席で修了。修了時に大学院アカンサス音楽賞を受賞。2017年、藝大フィルハーモニア管弦楽団合唱定期演奏会にてバッハ《ミサ曲ロ短調》のソリストを務める。2018年《カンティクル》全5曲を含むオール・ブリテン・プログラムによる自身初のリサイタルを開催。2021年にはクルシェネク没後30年を記念した演奏会（北とぴあ国際音楽祭2021参加公演）を企画し、日本初演となる室内オペラ《信じること、その値段は》に出演。このほかバッハ・コレギウム・ジャパン、ヴォーカル・アンサンブル カペラ、サリクス・カンマーコア、ヴォクスマーナの定期演奏会へ参加するなど、幅広い活動を行っている。日本歌唱芸術協会理事。

葭島啓介（ピアノ）
埼玉県生まれ。東京大学法学部卒業、東京大学法科大学院修了。在学中は開成管弦楽団、東京大学フィルハーモニー管弦楽団の指揮者をつとめる。現在、都内で弁護士として執務する傍ら、バロックから近代を主要なレパートリーとして、ソロ、デュオ、室内楽、歌曲伴奏等の演奏活動を行い、現代作曲家の新作や編曲作品の初演も多数行っている。ドイツ音楽とフランス音楽を得意とし、2016年に1st CD「シューマン＆リスト」、2020年に2nd CD 「Transcribed Bach」をリリース。2021～22年にかけて、大脇滉平編曲によるイザイの無伴奏ヴァイオリンソナタのピアノ独奏版の初演を行った。2023年4月にイザイの同作品を収録したCD「イザイ・オン・ピアノ」をMclassicsレーベルよりリリースし、レコード芸術誌特選盤に選定されるほか、「最近これだけ泣かされたCDもない」（井上千岳氏、『無線と実験』2023年7月号）など好評を博す。

＜ドイツリートの領域　テーマ作曲家＞

#1　シューベルトとリーム	2025年1月11日	やなか音楽ホール
#2　シューマンとライマン	2026年1月12日	やなか音楽ホール

（以降、開催予定）

#3　ブラームスとトロヤーン	2027年1月予定
#4　ヴォルフ、クレーベとヘンツェ	2028年1月予定